

# 「住民の観光客受け入れに対する意識調査」について

ツーリズムおおいた

## 調査概要

調査目的	大分県の居住者における観光者に対する受入意識を把握する。
調査手法	■ インターネットアンケート
調査エリア	■ 大分県
調査対象者	■ 10～80代の男女 サンプル数1,151名 ① 都市部エリア : 303名 ② 温泉地エリア : 296名 ③ ネイチャーエリア : 253名 ④ 歴史文化エリア : 299名
実査期間	■ 2021年10月21日(木)～11月1日(月)
実査機関	■ 株式会社アイディエーション
留意点	■ 今回の調査では、令和2年10月1日現在の県の大分県の各市町村の人口推計データを基に、調査結果をエリアごとの実際の性・年代人口構成比と等しくなるよう、再集計(=人口ウエイトバック)を実施。

# エリア別サンプル構成

## 令和2年10月1日現在の人口推計データ

(人)				
No	市町村	年代	男性	女性
1	大分市	30代以下	93,299	90,373
		40代	34,514	35,087
		50代	27,632	29,984
		60代以上	70,425	89,634
2	別府市	30代以下	19,828	20,529
		40代	6,860	7,609
		50代	6,398	7,312
		60代以上	18,935	27,422
3	中津市	30代以下	16,354	14,637
		40代	5,649	5,254
		50代	4,771	4,868
		60代以上	12,918	17,289
4	日田市	30代以下	9,815	9,378
		40代	3,666	3,779
		50代	3,901	3,908
		60代以上	11,575	15,228
5	佐伯市	30代以下	9,741	9,012
		40代	3,898	3,954
		50代	3,671	4,123
		60代以上	13,589	18,695
6	臼杵市	30代以下	5,369	4,797
		40代	2,179	2,054
		50代	1,993	2,163
		60代以上	7,519	9,909
7	津久見市	30代以下	1,971	1,841
		40代	866	888
		50代	922	919
		60代以上	3,603	4,829
8	竹田市	30代以下	2,400	2,309
		40代	935	881
		50代	1,027	1,047
		60代以上	4,891	6,430
9	豊後高田市	30代以下	3,426	3,311
		40代	1,306	1,199
		50代	1,228	1,209
		60代以上	4,388	5,721

(人)				
No	市町村	年代	男性	女性
10	杵築市	30代以下	4,596	4,117
		40代	1,755	1,639
		50代	1,531	1,610
		60代以上	5,470	6,983
11	宇佐市	30代以下	8,633	8,353
		40代	3,169	3,144
		50代	3,067	3,159
		60代以上	9,979	13,376
12	豊後大野市	30代以下	4,550	4,346
		40代	1,750	1,772
		50代	1,679	1,820
		60代以上	7,463	9,785
13	由布市	30代以下	5,910	5,826
		40代	1,989	1,986
		50代	1,739	1,871
		60代以上	5,795	7,582
14	国東市	30代以下	3,549	3,190
		40代	1,433	1,342
		50代	1,488	1,566
		60代以上	5,849	7,475
15	姫島村	30代以下	158	99
		40代	76	77
		50代	84	107
		60代以上	495	628
16	日出町	30代以下	5,133	5,115
		40代	1,914	1,904
		50代	1,605	1,719
		60代以上	4,583	5,825
17	九重町	30代以下	1,140	1,050
		40代	475	438
		50代	478	491
		60代以上	2,027	2,577
18	玖珠町	30代以下	2,362	2,017
		40代	834	800
		50代	876	862
		60代以上	2,867	3,776

調査結果をエリアごとの実際の性・年代人口構成比と等しくなるよう、再集計 = 人口ウエイトバック(WB)を実施。

(人)			
都市部エリア	人数	比率	
男性	30代以下	109,653	19.8%
	40代	40,163	7.3%
	50代	32,403	5.9%
	60代以上	83,343	15.1%
女性	30代以下	105,010	19.0%
	40代	40,341	7.3%
	50代	34,852	6.3%
	60代以上	106,923	19.3%
合計	552,688		

温泉地エリア			
人数	比率		
男性	30代以下	25,738	17.4%
	40代	8,849	6.0%
	50代	8,137	5.5%
	60代以上	24,730	16.8%
女性	30代以下	26,355	17.9%
	40代	9,595	6.5%
	50代	9,183	6.2%
	60代以上	35,004	23.7%
合計	147,591		

ネイチャーエリア			
人数	比率		
男性	30代以下	19,922	14.2%
	40代	7,899	5.6%
	50代	7,710	5.5%
	60代以上	30,044	21.4%
女性	30代以下	18,365	13.1%
	40代	7,929	5.6%
	50代	8,322	5.9%
	60代以上	40,290	28.7%
合計	140,481		

歴史文化エリア			
人数	比率		
男性	30代以下	42,921	15.7%
	40代	16,357	6.0%
	50代	15,840	5.8%
	60代以上	54,254	19.9%
女性	30代以下	40,570	14.8%
	40代	15,942	5.8%
	50代	16,381	6.0%
	60代以上	70,947	26.0%
合計	273,212		

(n数)				
都市部エリア	WB前	WB後		
男性	30代以下	38	60	
	40代	49	22	
	50代	44	18	
	60代以上	39	46	
女性	30代以下	52	58	
	40代	42	22	
	50代	31	19	
	60代以上	8	59	
合計	303	303		

温泉地エリア				
WB前	WB後			
男性	30代以下	25	52	
	40代	35	18	
	50代	51	16	
	60代以上	65	50	
女性	30代以下	48	53	
	40代	33	19	
	50代	19	18	
	60代以上	20	70	
合計	296	296		

ネイチャーエリア				
WB前	WB後			
男性	30代以下	18	36	
	40代	32	14	
	50代	50	14	
	60代以上	32	54	
女性	30代以下	43	33	
	40代	37	14	
	50代	21	15	
	60代以上	20	73	
合計	253	253		

歴史文化エリア				
WB前	WB後			
男性	30代以下	30	47	
	40代	43	18	
	50代	54	17	
	60代以上	59	59	
女性	30代以下	43	44	
	40代	39	17	
	50代	24	18	
	60代以上	7	78	
合計	299	299		

## 調査項目の設定（設問項目）

### □ スクリーニング調査

- ・現居住地と過去居住地
- ・居住地域（市町村）
- ・現住所の居住期間（累計）



### ■ プロフィール

- ・家族構成、職業、趣味、現住居環境

### ■ 大分県に関する関心・好感度

- ・訪れたことのある観光スポット
- ・大分県のことをどれくらい好き？

### ■ 観光客の受入に対する意識

- ・観光客増加の受容度
- ・観光客を増やす取組みとして、行政と住民はどのように取組めばよい？
- ・観光客を増やす取組みへの関与（ご自身と地域との関わりについて）
- ・観光客を増やす取組みへの今後の意向（今後取り組んでみたいもの）
- ・観光客増加の影響（デメリット）
- ・観光客増加の影響（メリット）

### ■ 大分県の魅力発信

- ・大分県がもっと外部にアピールすべきだと感じる魅力は？
- ・大分県の魅力について友人・知人などの他者に説明できますか？
- ・あなたが思う「今後外部に発信すべき大分の魅力」（自由回答）

## 定性調査結果からの仮説

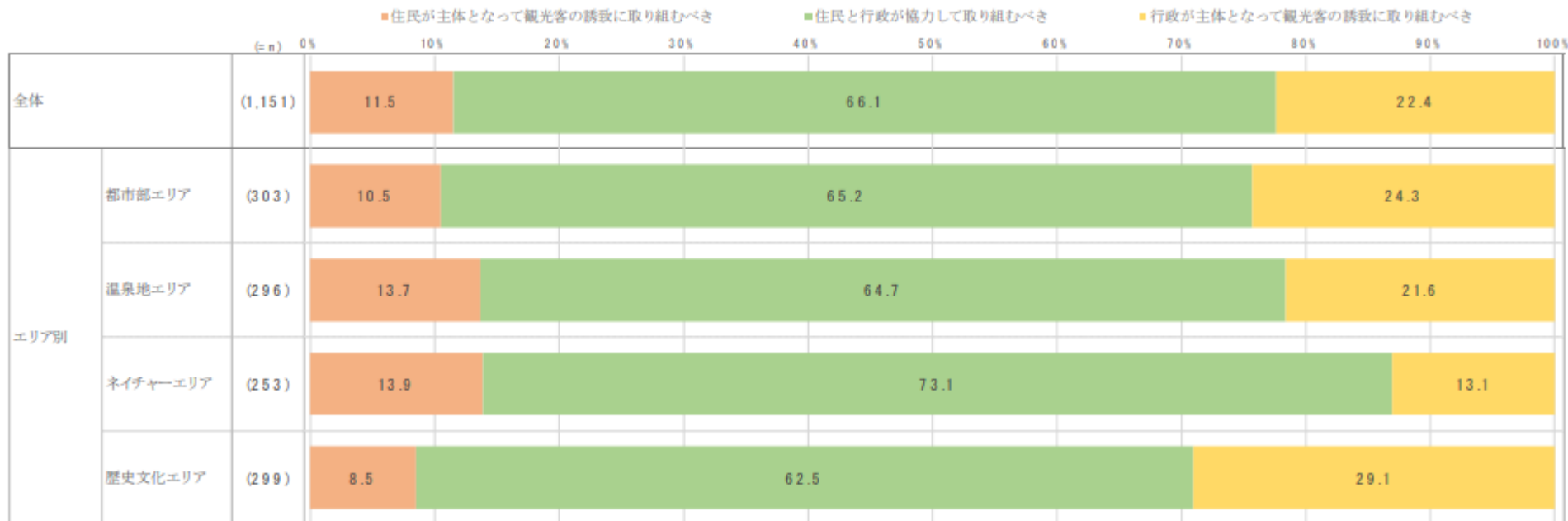
- 観光客の誘致には「地元民が主体で動いていく必要がある」と考える人がどのくらいいるのか。
- 大分県に愛着がある人や観光が好きな人ほど、観光客の受入には寛容？
- 生活圏が県内で県外に行かない人ほど、観光客の受入には厳しい？
- そもそも県内を観光している人どのくらいいるの？
- 地域内のコミュニケーションが濃い方が観光客の受入受容性としては高いのか？
- 自分たちのやっていることに価値を感じていない可能性？





・観光客の誘致には「地元民が主体で動いていく必要がある」と考える人がどのくらいいるのか。

- ・「住民と行政が協力して取り組むべき」と考えている人が**7割**弱。
- ・「住民が主体となって取り組むべき」と考えている人は**1割**程度。
- ・「行政が主体となって取り組むべき」と考えている人は**2割**程度。
- ・ネイチャーエリアは他のエリアと比べて、「住民と行政が協力して取り組むべき」と考えている人が多い。
- ・歴史文化エリアは他のエリアと比べて、「行政が主体となって取り組むべき」と考えている人が多い。

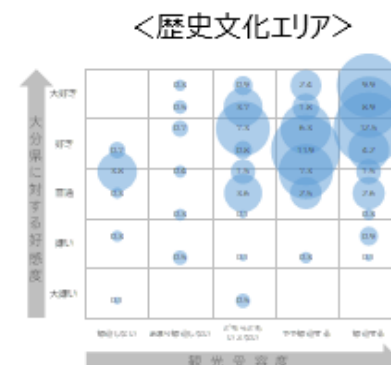
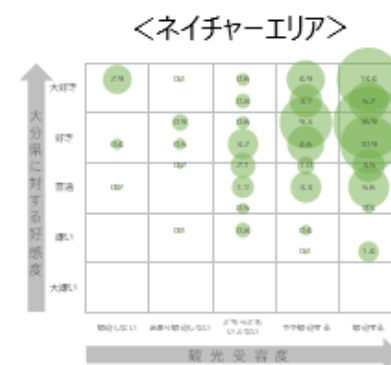
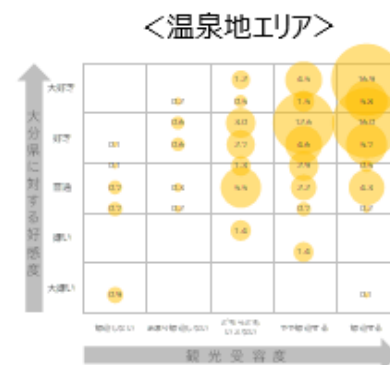
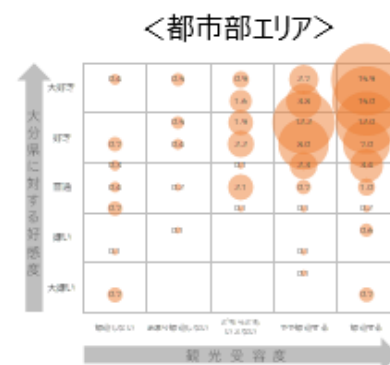
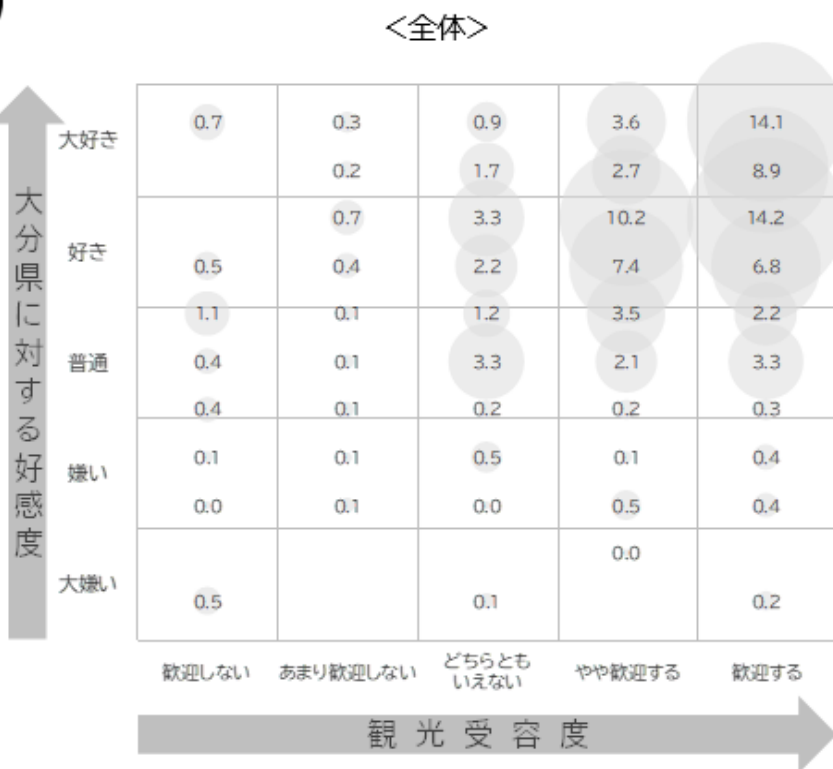




・大分県に愛着がある人や観光が好きの人ほど、観光客の受入には寛容？



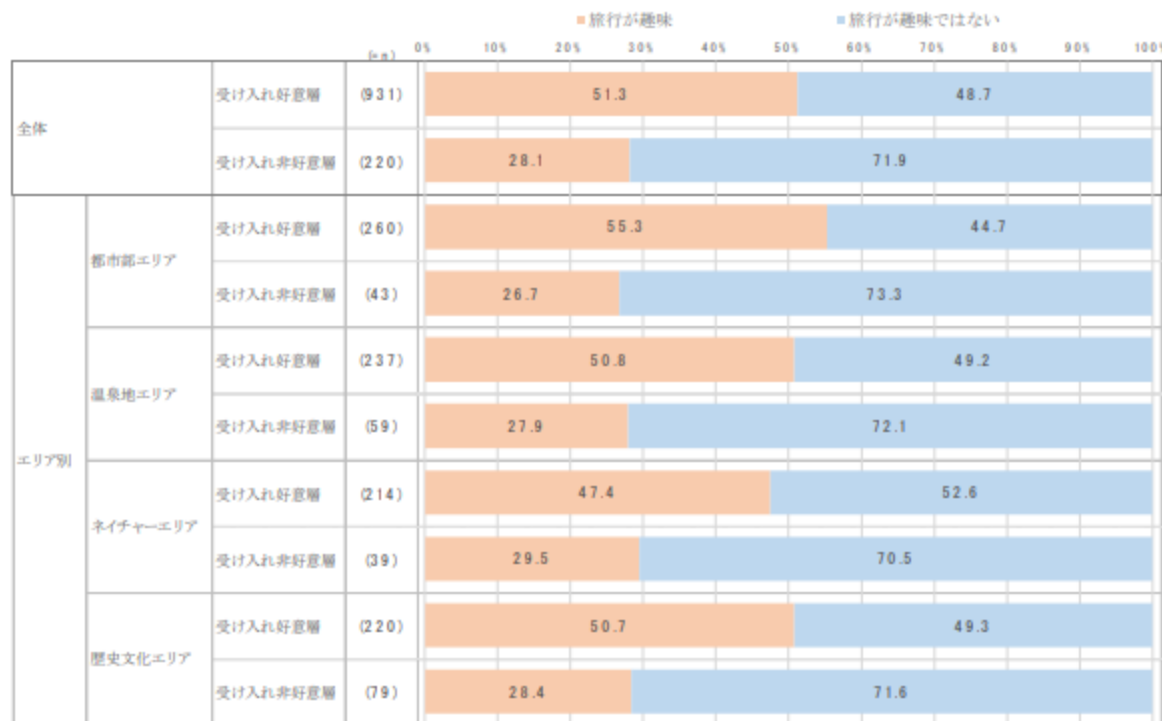
- ・大分県に対する**好感度が高い人**ほど、**観光受容度も高い**。
- ・どのエリアにおいても、大分県に対する好感度が高い人ほど、観光受容度も高い。
- ・ネイチャーエリアにおいては、他のエリアと比べると、大分県に対する**好感度が高い人**でも、**観光受容度が低い人**が一定数見られる。





・大分県に愛着がある人や観光が好きの人ほど、観光客の受入には寛容？

- “旅行が趣味”に関わらず観光受容度の相関は高いが、“旅行が趣味ではない”人は観光受容度の相関が**低い**傾向にある。
- エリア別では、“ネイチャーエリア”が他のエリアと比べて、“旅行が趣味ではない”にも関わらず観光受容度の**高い**人の割合が多い。





## 調査結果 | 4



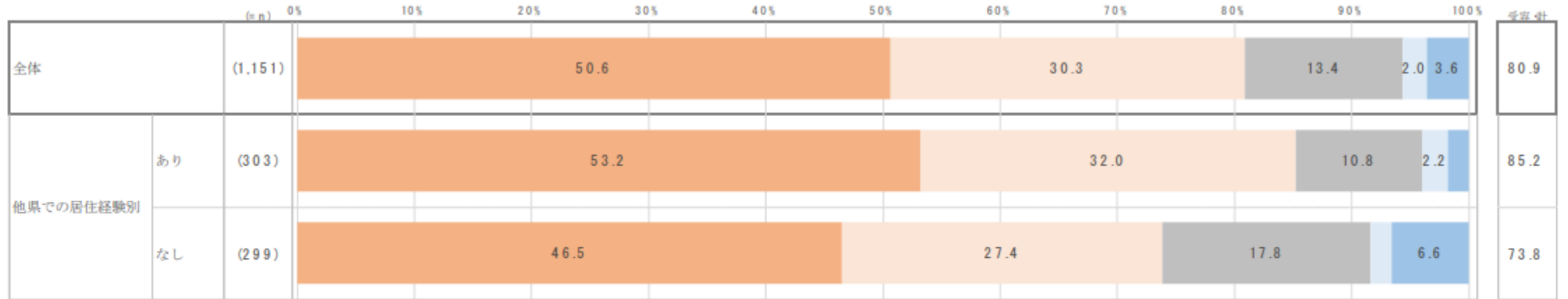
• 生活圏が県内で県外に行かない人ほど、観光客の受入には厳しい？



• 県外で生活したことがある人は、県外で生活したことがない人よりも、**観光受容度が高い。**



■ 観光客が増えることを、歓迎する ■ 観光客が増えることを、やや歓迎する ■ どちらともいえない ■ 観光客が増えることは、あまり歓迎しない ■ 観光客が増えることは、歓迎しない



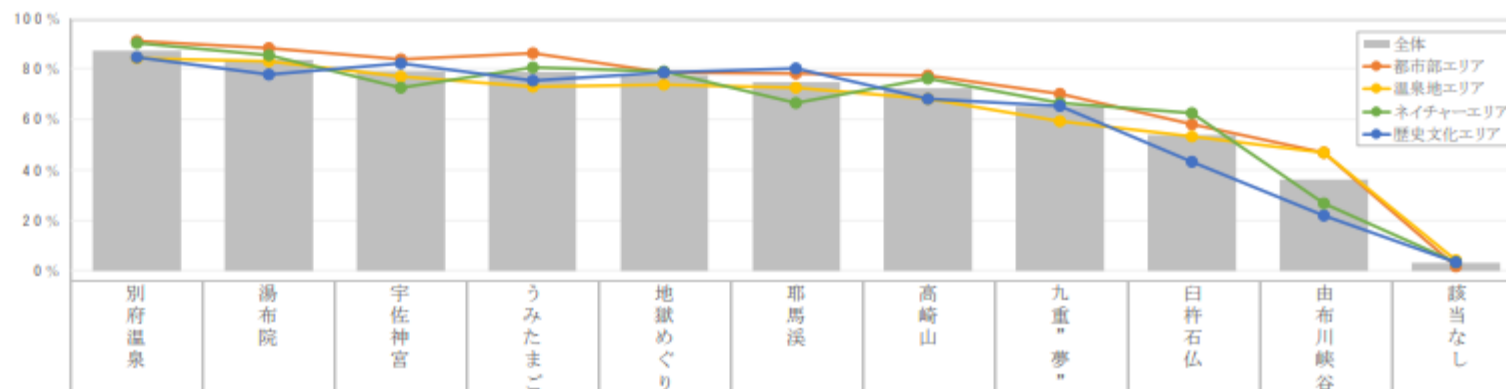
※2%未満は非表示



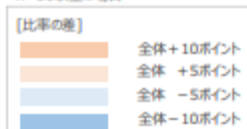
• そもそも県内を観光している人どのくらいいるの？



- 「別府温泉」や「湯布院」には**8割以上**の人が訪れており、「うみたまご」、「地獄めぐり」、「耶馬溪」、「高崎山」には**7割以上**の人が訪れている。
- 都市部エリアは、他のエリアと比べて「うみたまご」や「由布川峡谷」を訪れる人が多い。



n=30以上の場合



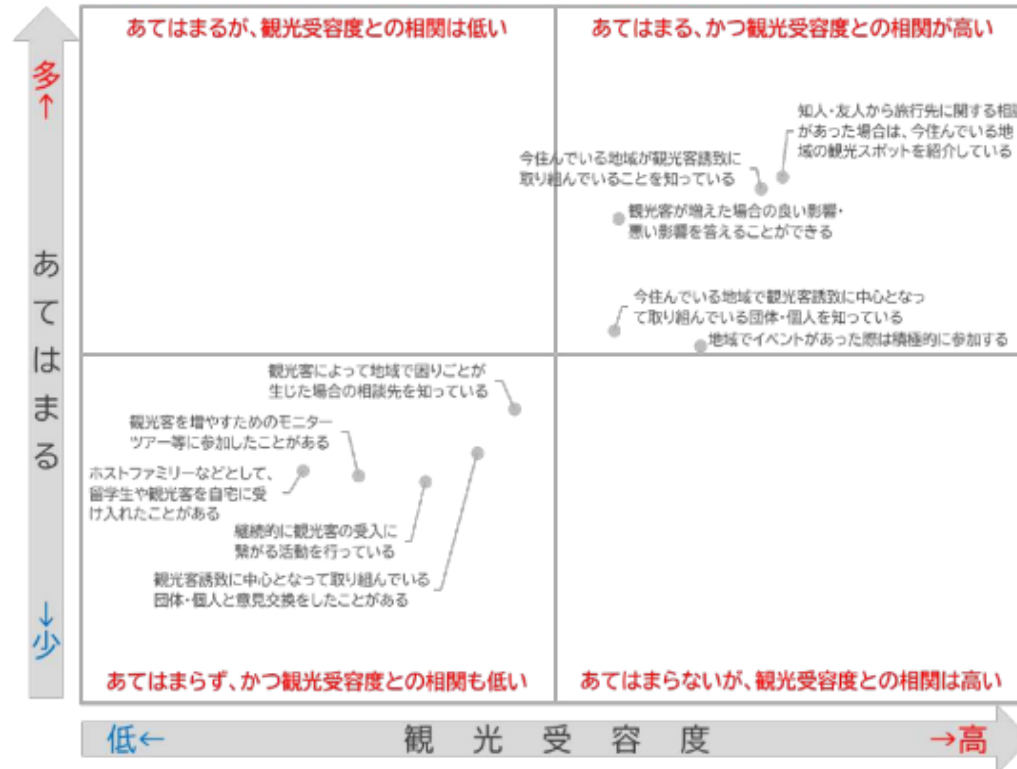
		(n)	別府温泉	湯布院	宇佐神宮	うみたまご	地獄めぐり	耶馬溪	高崎山	九重「夢」吊大橋	臼杵石仏	由布川峡谷	該当なし
全体		(1,151)	87.3	83.6	79.1	78.7	77.4	74.7	72.2	65.2	53.9	35.9	3.2
エリア別	都市部エリア	(303)	90.8	88.3	83.9	86.1	78.5	78.2	77.1	70.2	58.0	46.8	1.6
	温泉地エリア	(296)	84.3	82.9	76.8	73.0	73.7	72.4	68.0	59.2	53.2	46.8	4.4
	ネイチャーエリア	(253)	90.1	85.4	72.4	80.4	78.9	66.6	76.1	66.4	62.5	26.7	3.4
	歴史文化エリア	(299)	84.5	77.9	82.1	75.3	78.7	80.1	68.0	65.3	43.3	22.0	3.5

※ 全体のスコアで降順にソート



・地域内のコミュニケーションが濃い方が観光客の受入受容性としては高いのか？

・住んでいる地域との関わりとして、「観光スポットを紹介している」、「観光客誘致の取り組みを知っている」、「良い影響・悪い影響を答えられる」、「観光客誘致に取り組んでいる団体・個人を知っている」、「地域イベントに積極的に参加」に当てはまる人ほど、観光受容度との相関が高くなっている。



※あてはまると観光受容の相関は平均を50、標準偏差を10として偏差値を算出してプロット

**「住んでいる地域との関わり」項目一覧**

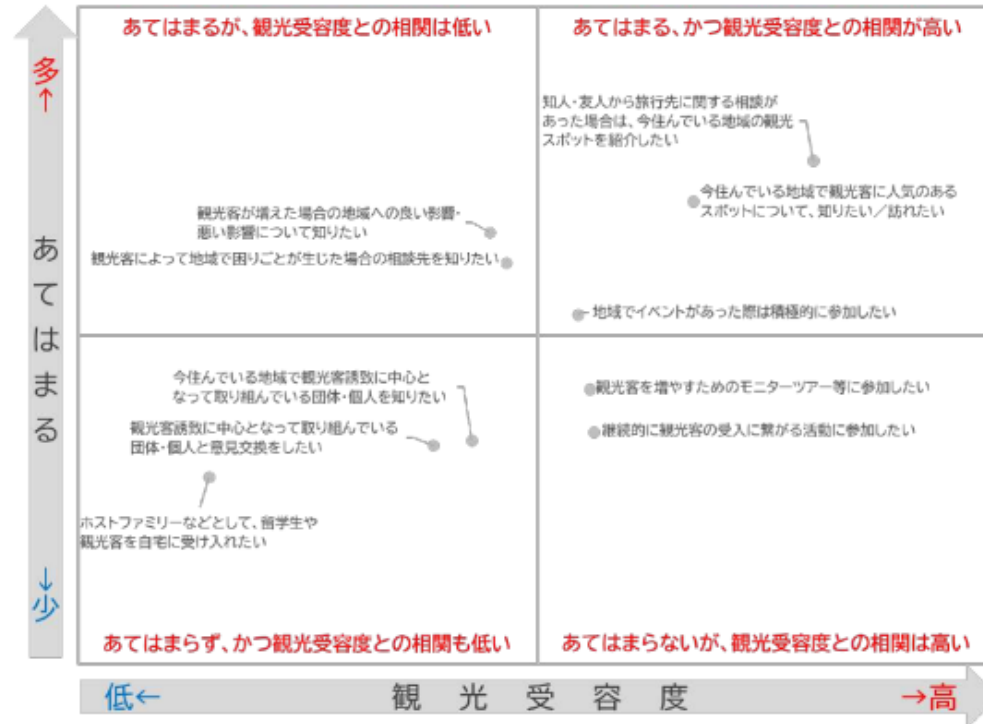
- ・知人・友人から旅行先に関する相談があった場合は、今住んでいる地域の観光スポットを紹介している
- ・今住んでいる地域が観光客誘致に取り組んでいることを知っている
- ・観光客が増えた場合の良い影響・悪い影響を答えられる
- ・今住んでいる地域で観光客誘致に中心となっていて取り組んでいる団体・個人を知っている
- ・地域でイベントがあった際は積極的に参加する
- ・観光客によって地域で困りごとが生じた場合の相談先を知っている
- ・観光客誘致に中心となっていて取り組んでいる団体・個人と意見交換をしたことがある
- ・ホストファミリーなどとして、留学生や観光客を自宅に受け入れたことがある
- ・観光客を増やすためのモニターツアー等に参加したことがある
- ・継続的に観光客の受入に繋がる活動を行っている



・自分たちのやっていることに価値を感じていない可能性？



・観光客を増やすための取り組みとして、「住んでいる地域の観光スポットを紹介したい」、「人気のあるスポットを知りたい」、「地域イベントに積極的に参加したい」に当てはまる人ほど、観光受容度との相関が高くなっている。



※あてはまると観光受容の相関は平均を50、標準偏差を10として偏差値を算出してプロット

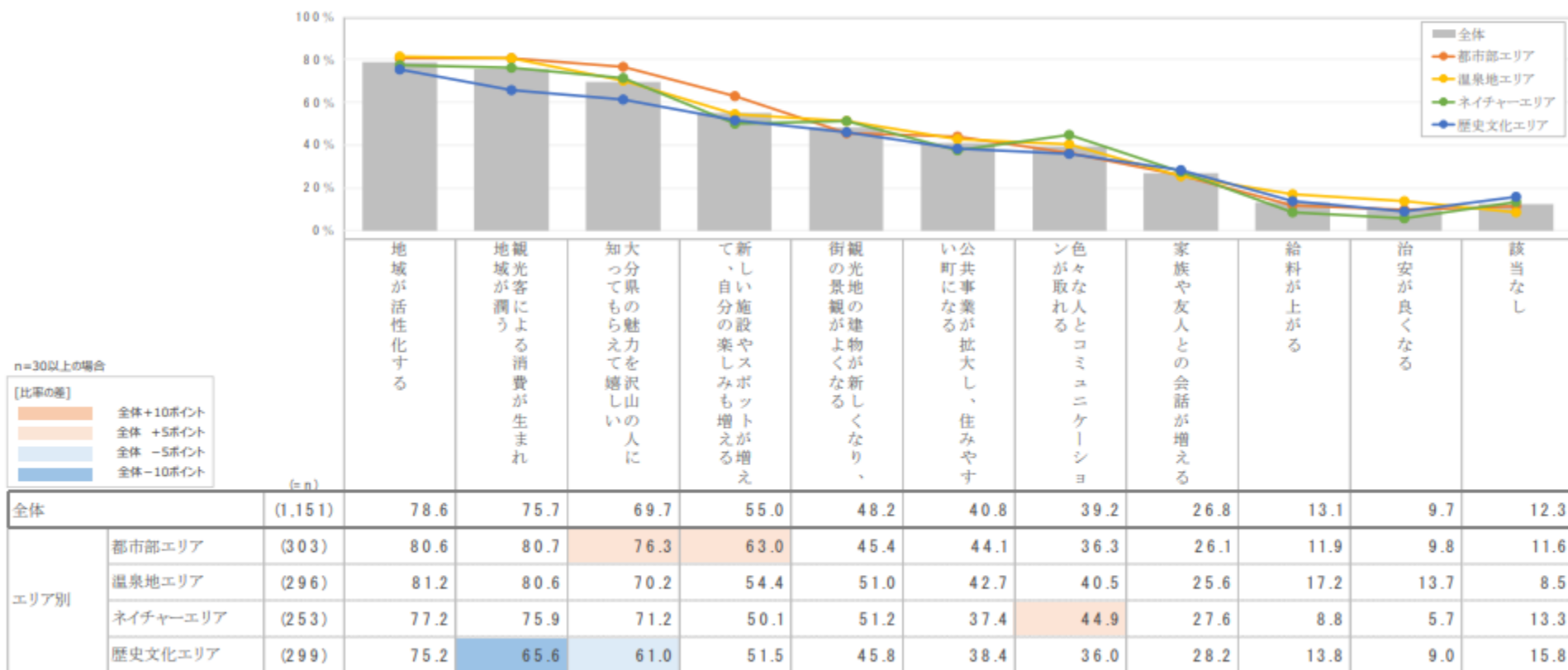
**「観光客を増やす取組みとして今後取り組んでみたいもの」項目一覧**

- ・知人・友人から旅行先に関する相談があった場合は、今住んでいる地域の観光スポットを紹介したい
- ・今住んでいる地域で観光客に人気のあるスポットについて、知りたい／訪れたい
- ・観光客が増えた場合の地域への良い影響・悪い影響について知りたい
- ・観光客によって地域で困りごとが生じた場合の相談先を知りたい
- ・地域でイベントがあった際は積極的に参加したい
- ・観光客を増やすためのモニターツアー等に参加したい
- ・継続的に観光客の受入に繋がる活動に参加したい
- ・今住んでいる地域で観光客誘致に中心となって取り組んでいる団体・個人を知りたい
- ・観光客誘致に中心となって取り組んでいる団体・個人と意見交換をしたい
- ・ホストファミリーなどとして留学生や観光客を自宅に受け入れたい
- ・該当なし



• 観光客が増えることによるメリットは？

• メリットとしては、「地域が活性化する」が**8割**近く、「消費が生まれ地域が潤う」、「大分県の魅力を知ってもらえて嬉しい」が**7割**を超えている。



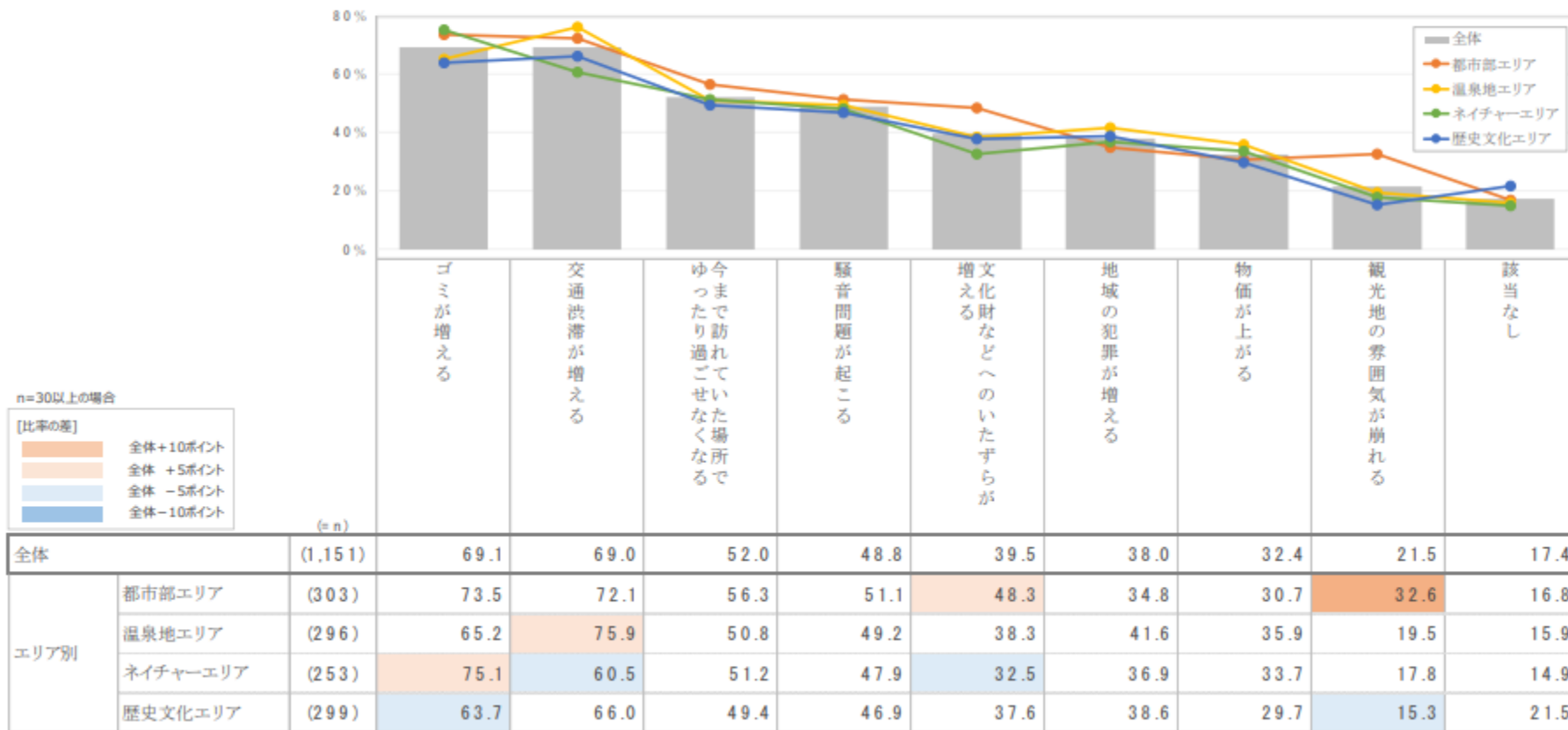
※ 全体のスコアで降順にソート



・観光客が増えることによるデメリットは？



・デメリットとしては、「ゴミが増える」、「交通渋滞が増える」が**7割**近く、「ゆっくり過ごせなくなる」が**5割**となっている。



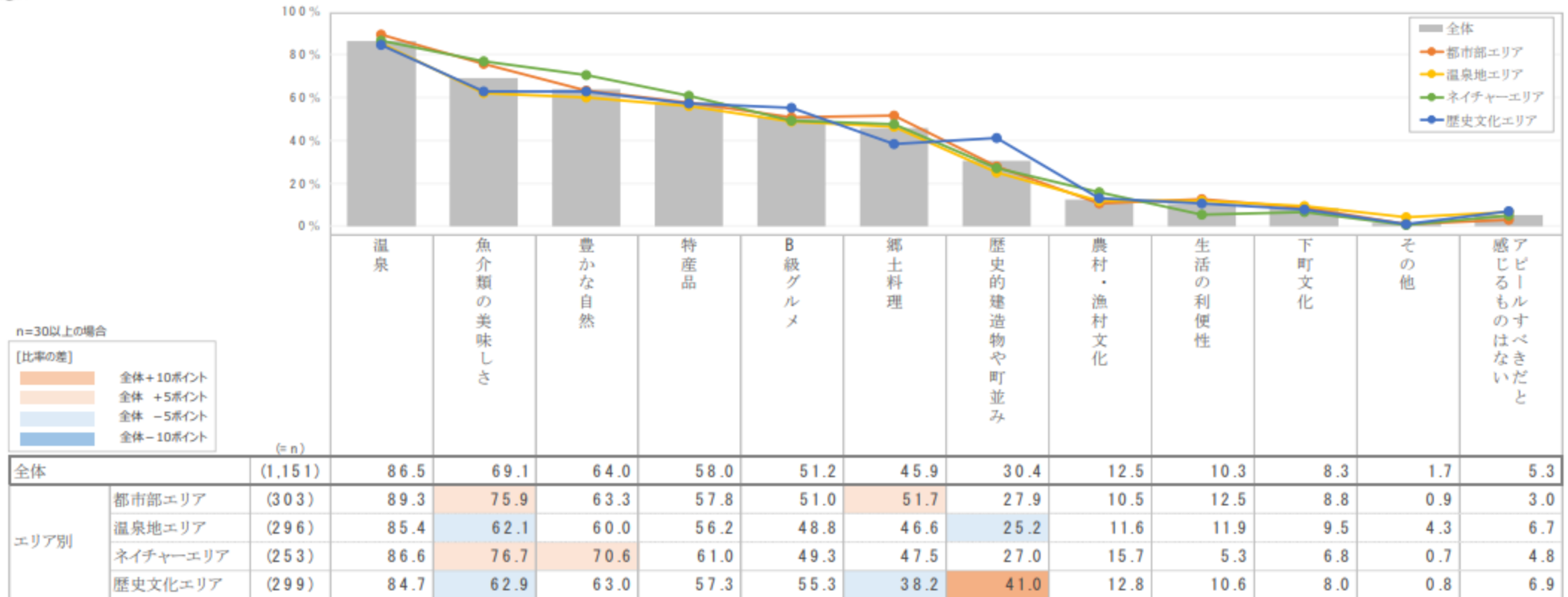
※ 全体のスコアで降順にソート



・大分県のアピールすべき魅力は？



・「温泉」が**9割**近く、「魚介類の美味しさ」、「豊かな自然」が**6割**を超えている。



n=30以上の場合  
[比率の差]  
全体+10ポイント  
全体+5ポイント  
全体-5ポイント  
全体-10ポイント

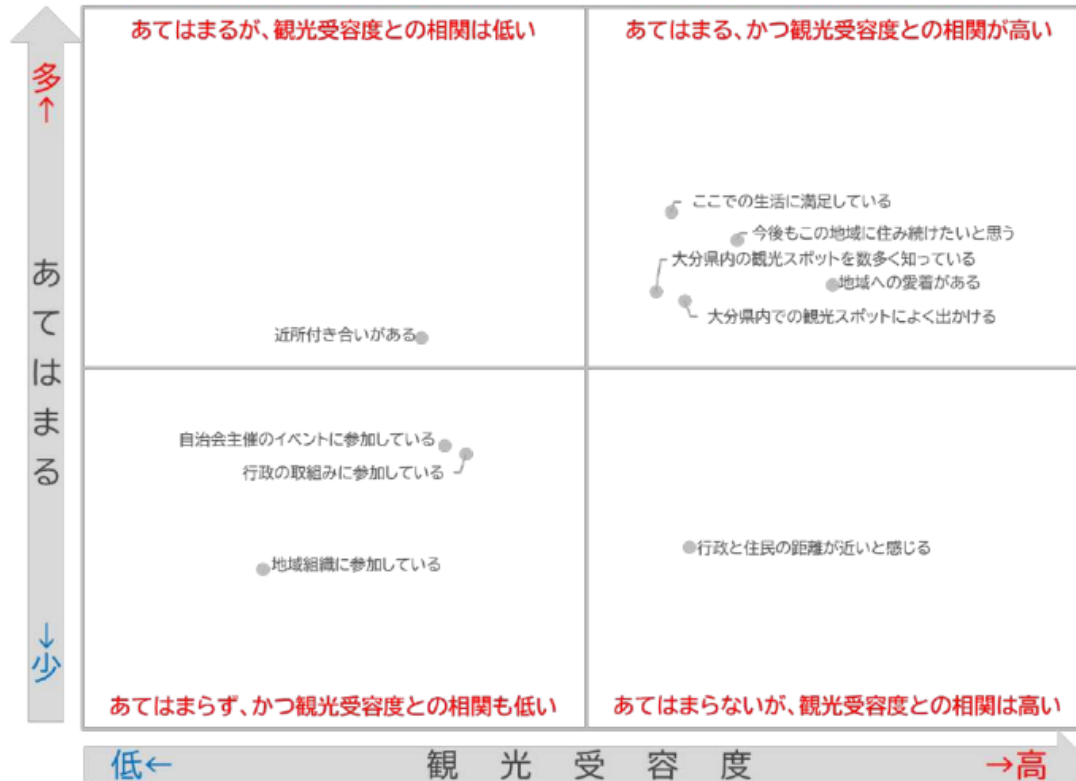
※ 全体」のスコアで降順にソート



・「住んでいて当てはまる事項」と観光受容度との相互関係は？



・住んでいて当てはまる事項として、「生活に満足している」、「観光スポットを数多く知っている」、「地域への愛着がある」、「観光スポットへよく出かける」に当てはまる人ほど、観光受容度との相関が高い。また、「行政と住民の距離が近い」に当てはまる人の観光需要度も高くなっているため、「行政と住民の距離が近い」と感じる人を増やす必要があると考える。



「住んでいてあてはまる事項」項目一覧

- ・ここでの生活に満足している
- ・今後もこの地域に住み続けたいと思う
- ・地域への愛着がある
- ・大分県内の観光スポットを数多く知っている
- ・大分県内での観光スポットによく出かける
- ・近所付き合いがある
- ・自治会主催のイベントに参加している
- ・行政の取組みに参加している
- ・行政と住民の距離が近いと感じる
- ・地域組織に参加している
- ・該当なし



## 観光客受入の受容度が**高い**住民の特徴

観光客受け入れの受容度を高める取組は、住民の生活の質を向上させ、住民を地域の観光推進のパートナーとして育成することに繋がると考えられる。旅行の楽しさを伝え、観光地域づくりへの参画機会を増やすことで、観光客受け入れをより地域づくりに生かすことができると思われる。

### アンケートで得られた事実①

観光客の受入受容度が高い住民は、受容度が低い住民よりも「旅行が趣味」と答えている傾向がある

観光客の受入受容度が高い住民は、観光客を増やすために取り組みたいこととして、半分以上は、今住んでいる地域の観光スポットを紹介したいと答えている。

観光客の受入受容度が高い住民は、大分県に住んでいて当てはまることとして、「ここでの生活に満足している」「今後もこの地域に住み続けたい」「地域への愛着がある」と回答した人が、いずれも受入れ受容度の低い住民よりも20%以上高かった



### 観光客の受入受容度が高い住民に関する仮説

観光客の受け入れ受容度を高めることは、結果として「旅行を趣味とする」住民の増加に寄与し、**県内観光の推進に貢献する。**

観光客の受入受容度を高めることは、**住民自身による口コミPR効果を高めることにつながり、地域の情報発信力を高めることに繋がる。**

観光客の受入受容度を高めることは、**地域への愛着を高めることに繋がり、住民のQOLや定住意識の向上と関連する。**

## 観光客受入の受容度が低い住民の特徴

観光客受け入れの受容度が低い要因として、①地域への愛着が薄い、②行政と住民との距離を感じる、③観光客によるデメリットが意識されていることが考えられる。これらは、行政及び誘客組織と住民との対話を通じて解決可能な事項であるため、積極的な取組が期待される。

### アンケートで得られた事実①

観光客の受入受容度が低い住民は、大分県に住んでいて当てはまることとして、「地域への愛着がある」と回答した人が、受入れ受容度が高い住民より20%以上少なかった。

「大分県に住んでいて当てはまること」と「観光客の受容度」の相関性をみると、「行政と住民の距離が近いと感じる」と観光受容度の相関性が高く、当てはまる人も少ないとわかった。

観光客の受入受容度が高い住民は、観光客が増えることによるデメリットとして、「今まで訪れていた場所でゆったり過ごせなくなる」「騒音問題が起こる」など、デメリットが受入れ受容度の高い住民よりも強く意識されている。



### 観光客の受入受容度が高い住民に関する仮説

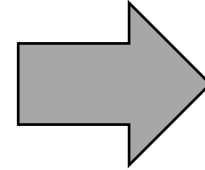
地域への愛着（シビックプライド）を醸成する取組を行うことで、**観光客受入の受容度を向上させることに繋がる**

観光に関連する**行政組織や誘客組織が、住民との接点を増やすことで観光客受入の受容度を向上させることに繋がる**

観光客によって引き起こされるデメリットについて、住民との対話を通じて、**解決策を探っていくことで観光客受け入れの受容度を向上させることに繋がる**

地域との関わりの薄さが、住民の観光客受容度を下げる要因となっている可能性がある

▶ 行政との距離や観光客誘致に関するデメリットを感じている層が、観光客の受容度が低い傾向にある。



### 住民を巻き込む観光地域づくりの推進

住民の観光客受容度を向上させることは、地域における観光推進のパートナーを増やすのみならず、住民の生活の質向上に繋がり得る。行政や誘客主体と住民が積極的に対話を行い、旅行の楽しさを伝え、観光地域づくりへの参画機会を増やすことが必要である。

